

科目名	保育実習 I (保育所) 事前事後指導				担当	関 裕子・千葉 直紀・堤 裕美		
形態	演習	単位数	1	開講時期	1年後期・2年前期	実務経験	保育士経験あり(関・千葉)	
必修	保育士：必修				ナンバリング	Y5103	DPとの関連	免1
授業概要	<p>本科目は「保育実習 I (保育所)」を実施するために必要な事前の知識・技術の習得を目指すとともに、実習に必要な書類の準備や、人権の尊重、守秘義務の厳守等、実習生としての心構えの確認を行う授業である。15回の事前事後指導すべてに出席することが、「保育実習 I (保育所)」実施の条件である。</p>							
到達目標 学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護、守秘義務等を理解する 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する 5. 事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする 							
授業計画	回	内容						
	1	保育実習 I に向けて	「教育実習 I」の振り返りを行い、自らの課題を確認する					
	2	保育実習の意義	保育所保育指針から保育実習 I (保育所)の目的と内容を理解する					
	3	実習の内容と課題の明確化①	保育所の役割と機能の理解 実習課題を明確化					
	4	実習の内容と課題の明確化②	保育実習 I (保育所)に必要な備えを概観する					
	5	保育所における子どもの理解	子どもの発達過程と保育所における生活(1~3月の姿)を知る					
	6	観察と記録の方法①	観察の種類とその目的 記録の取り方について学ぶ					
	7	観察と記録の方法②	実習日誌の書き方について学ぶ(時系列)					
	8	観察と記録の方法③	実習日誌の書き方について学ぶ(エピソード記録)					
	9	保育環境の理解①	発達過程や生活面、安全面に応じた保育内容と環境理解					
	10	保育環境の理解②	発達過程やあそび面に留意した環境理解					
	11	保育計画と技術①	様々な保育技術について 計画の作成について学ぶ					
	12	保育計画と技術②	絵本の読み聞かせの計画を作成し、実践する					
	13	保育計画と技術③	朝の集まりの計画を作成し、計画と実践のつながりを学ぶ 保育技術の実際を知り、現場で必要な実践について具体的に学ぶ					
	14	実習に際しての留意事項	子どもの人権と最善の利益への配慮、保育者の職業倫理、プライバシーの保護と守秘義務について理解する					
15	事後指導	実習の総括 自己評価と課題を明確化する(評価伝達)						
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人としてふさわしい常識と意欲を持って事前指導に臨めたか 2. 実習で必要とされる保育技能の修得に取組み、実践できたか 3. 保育士に求められる職業倫理について説明できるか 							
評価方法	授業態度 50% その他 50% (課題・提出物)							
フィードバック 方法	日誌や指導案の記入シートを配布し記述例を共有する							
アクティブ ラーニング	手あそびや絵本の読み聞かせの実践							
教科書	『実習ガイドブック』上田女子短期大学、『幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』チャイルド本社厚生労働省 『保育所保育指針解説』平成30年3月フレーベル館厚生労働省							
参考書	なし							
履修条件	<p>本授業を受講するためには、「教育実習 I」を履修済みであること。また、本学幼児教育学科において定める実習実施基準が、「保育実習 I」実施の条件となる。</p> <p>なお、15回目の実習事後指導は、実習園での12日間かつ90時間以上の保育実習を行った学生のみが出席できる。「保育実習 I」が何らかの事情で中止となった学生は、本科目の単位認定も行われないので注意すること。</p>							
授業外学習	事前学習：「保育実習 I (保育所)」の関連ガイダンスにもれなく出席すること(各30分) 事後学習：保育士資格取得に必要な手続きを済ませておくこと(各回1時間)							
オフィスアワー	実習指導室にて随時対応							